

# 2012年11月11日ミャンマーの地震

## － 遠地実体波による震源過程解析（暫定）－

2012年11月11日10時12分（日本時間）にミャンマーで発生した地震について、米国地震学連合（IRIS）のデータ管理センター（DMC）より広帯域地震波形記録を取得し、遠地実体波を用いた震源過程解析（注1）を行った。

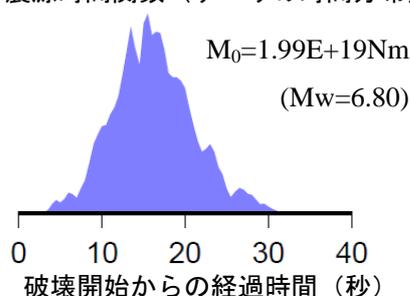
初期破壊開始点は、USGSによる震源の位置（ $23^{\circ} 00.7' N$ ,  $95^{\circ} 53.1' E$ , 深さ 12km）とした。断層面は、気象庁 W-phase 解の2枚の節面のうち、余震分布と整合的な節面（走向  $7^{\circ}$ , 傾斜  $66^{\circ}$ ）とした。最大破壊伝播速度は  $2.8\text{km/s}$  とした。

主な結果は以下のとおり（この結果は暫定であり、今後更新することがある）。

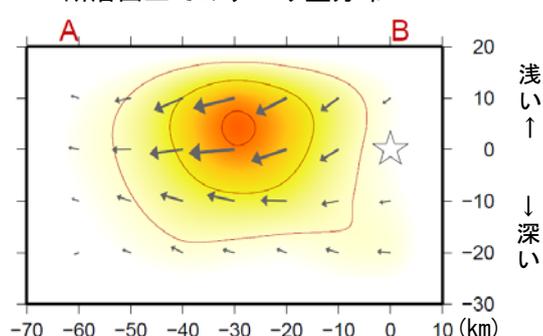
- ・断層の大きさは長さ約 50km, 幅約 30km であった。
- ・主なすべりは初期破壊開始点よりも南方向にあり、最大すべり量は 0.6m であった（周辺の構造から剛性率を 30GPa として計算）。
- ・破壊継続時間は約 30 秒であった。
- ・モーメントマグニチュード ( $M_w$ ) は 6.8 であった。

結果の見方は、[http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/sourceprocess/about\\_srcproc.html](http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/sourceprocess/about_srcproc.html) を参照。

震源時間関数（すべりの時間分布）

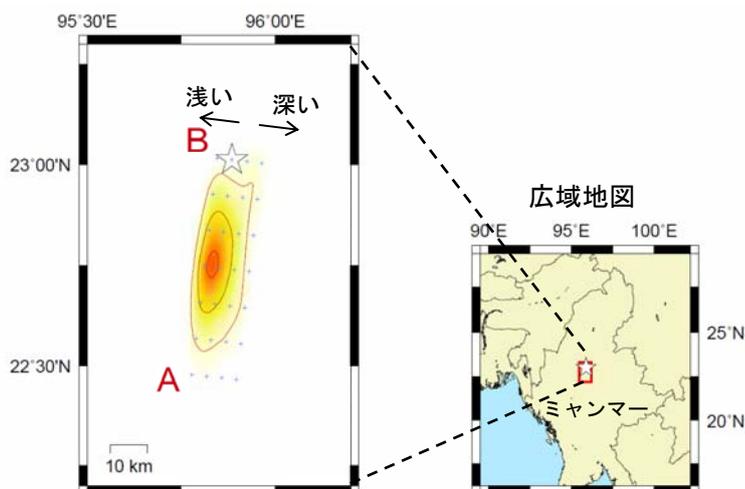


断層面上でのすべり量分布



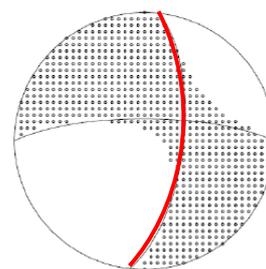
星印は初期破壊開始点、矢印は下盤側に対する上盤側の動きを表す。

地図上に投影したすべり量分布



星印は初期破壊開始点を示す。  
右図の赤枠は左図の地図範囲を示す。

気象庁 W-phase 解



断層面の設定に用いた節面（走向  $7^{\circ}$ , 傾斜  $66^{\circ}$ , すべり角  $-165^{\circ}$ ）を赤線で示す。

（注1）解析に使用したプログラム

M. Kikuchi and H. Kanamori, Note on Teleseismic Body-Wave Inversion Program,

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/ETAL/KIKUCHI/>

作成日：2012/11/13

気象庁作成

